第１学年　道徳指導案

日　時　平成１６年１２月７日（火）５校時
学　級　第１学年２組
男子１５名、女子１８名、合計３３名
指導者　教諭　酉丸　威一郎

１　主題名　自然のすばらしさ　〔３－（１）　自然への畏敬の念〕
２　資　料　木の命 木の心　（中学道徳　明日をひらく　東京書籍より）
３　主題設定の理由

（１）価値観

指導項目３－（１）は、「自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める」と示されている。これは、人間が自然と関わっていく中で、自然の持つ力のすばらしさを感じ取り、その中で、自分をも成長させていくということを示すものである。

中学生の時期は、心身共に発達が著しい時期であり、この時期に、自然の持つ力のすばらしさにふれることは、後々の生徒の成長にとても大切なことである。しかし、現発達段階においては、ものをものとしか感じられない、つまり、ものを大切に出来ない傾向を持つ時期でもある。このような時に、あらためて、自然の持つ力のすばらしさについて考えさせる時間を設定することは、生徒にとって、心の成長を促す機会となるはずである。

そこで、本時間では、１３００年経った現在でも美しい姿を残す法隆寺の建築を支えている檜の生命力やその建築を支える西岡さんの姿から、自然の持つ力のすばらしさを感じ取らせ、自然に対する畏敬の念を持たせたいと考え、この主題を設定した。

（２）生徒観

朝起きると親へあいさつをする生徒が９割。男女の仲も良く、班活動などでも意見をよく言い合い、協力的に進めることが出来る明るいクラスであり、心の面も育ってきているように感じられる。

しかし、他人を省みないで大声で話をしたり、話を聞く姿勢が良くないなど、意見は述べるが自己中心的な場面も見受けられる。また、自分が思い通りにいかないとものにあたる生徒もいる。

学級では、春から蜜柑の木、初夏からトマトを育てている。係の者が毎日世話をし、いたずらすることもなく、現在に至っている。しかし、生徒達は実がなることには興味があるが、その生長や毎日の世話には関心が薄い。また、自然に対して感動経験がある生徒も２名と少ない。そこで、本主題を通じて、あらためて自然の生命力や自然の持つ力のすばらしさに気づかせたい。

（３）資料観

西岡さんは、木にも個性があると考え、木を人間と同じに見ている。そのため建築物を作るにあたって、ただ木材を使うのではなく、山に入って木を見ることから始める。そして、それぞれの木のくせを読み、建築のどの部分に使うのが良いのかと考え、建築に入る。また、木の命には、樹齢と耐用年数の二つがあると考え、これを全うさせるのが大工の仕事だと考えている。

私たちは、普段木製品であれば、物として考えることはあるがそこに、木の生命力、製作者の気持ちを考えることはまずない。この資料は、木の生命力（伐採されたあとも生き続けている）を通じて自然の持つ力の大きさを感じ取らせることが出来る資料である。

（４）指導観

日本は木の文化といわれ、昔から木がよく使われ、私たちにもなじみ深いものである。しかし、私たちは、木材や木製品をものとして扱うことはあるが、その木がどのように育ってきたのか、どのような願いで使われているのかといったことを考えることはあまりない。

本単元では、法隆寺の建築の中に使われている檜を通じて、私たちに木は生き物であることに気づかせてくれる。

宮大工西岡さんは、「木は生き物であるが故に、ただ使うことは出来ない。」と考え、木を読み、木のくせを見抜き、建築物を建立していく。そこには自然に対する畏敬の念とともに、日本の伝統技術が隠されている。本単元では、この西岡さんの木を読む心を通じて自然の持つ力のすばらしさに気づかせ、価値へと迫っていきたい。

4　本時の学習指導

（1）本時のねらい

法隆寺に使われている檜を通じて、西岡さんや飛鳥大工の自然を敬う気持ち、自然の持つ力のすばらしさに気づかせる。

（2）本時の展開

	学習の流れ	予想される生徒の反応	指導上の留意点及び評価
導入 ５分	1　法隆寺について考えさせる。 ・法隆寺のすばらしさはどんなことだろうか。	・１３００年経っても美しい姿でいる。 ・樹齢１０００年以上の木が使われている。	・板の反り返りを見せ、授業への興味関心を持たせる ・法隆寺の写真を見せながら、資料の想起をさせ、授業への関心を高めさせる。
展開前段 18分	2　資料を範読し、内容について話し合う。 (1)　法隆寺が１３００年経った今でも美しい姿を残しています。 　そこには、先人の技と知恵があります。 どのような技や知恵ですか。	・木の性質（くせ、ねじれ、個性）を見抜いて建てている。 ・樹齢１０００年以上の檜を使う。 ・１０００年の檜は１０００年生きる。	・現代の我々が気づかない先人の技や知恵を理解させ、資料に共感させたい。
	(2)　なぜ、このような技や知恵が必要だったのでしょうか。	・法隆寺を長く残すため。	・技や知恵を産み出す、元となる考えに気づかせたい。
	・長く残すにはどのような木が必要だったのでしょうか。	・樹齢１０００年以上の檜を使う。	
	・ 飛鳥の大工達は、檜をどのような思いで使ったのでしょうか。	・木に申し訳ないと思い使った。 ・１０００年生きられるように使った。 ・木はものでない。	
	(3)　どうして、飛鳥の大工達はこのように木を大切にするのでしょうか。	・木を尊いものだと考えるから。 ・１０００年以上も生きているから。 ・神代の時代から生きているから。 ・木は大自然が生み育てた命。	・木の尊さに気づかせ、価値に迫らせていきたい。
展開後段 10分	3　価値について考えさせる。 (1)　西岡さんは、檜をどのような存在と考えていますか。	・木は人間と同じ。 ・いろんな育ち方をしている。	・檜を大切にする人たちの自然に対する思いをつかませ価値を理解させたい。
	(2)　自分の感想をまとめ発表する。	・西岡さんや飛鳥大工の考えは素晴らしい。 ・檜が神代の時代から生きていることはすごい。	・授業の感想をまとめさせ価値を深めさせたい。 ●西岡さんや飛鳥大工の建築の背景にある考えが分かる。
終末 ７分	4　正法寺のビデオや木の反り返りの結果を見せ、価値を深めさせる。	・身近にもあるのだなぁ。 ・木は生きているのだなぁ。	・正法寺のビデオを見せ、価値を深めさせたい。 ・板の反り返りを見せ、木にも命があることを実感させたい。

5　資料分析図

場　　面	作者の言葉	生徒の意識	★発問の意図／〇発問
①西岡さんが自分のことを語る場面	「わたしは古代建築を扱う大工です。法隆寺で様々な先人の技と知恵を教わってきましたんや」	・１３００年というのはどれぐらいの長さなのだろうか。 ・法隆寺の木はすごいなぁ。	★１３００年という人間がつかむことの出来ない時の長さの中で、法隆寺が現存する原因をつかませたい。 〇法隆寺は１３００年経った今でも美しい姿を残しています。そこには先人の技と知恵があります。どのような技と知恵ですか。
②木の命を語る場面	「木の命には二つありますのや。一つは木の命としての樹齢ですな。もう一つは用材として生かされてからの耐用年数ですわ。」	・木は切られても生きているんだ。すごいなぁ。 ・先人はすごいことを知っていたんだなぁ。	★先人の技や知恵はどのような考えから産み出されたのか考えさせたい。 〇なぜ、このような技や知恵が必要だったのでしょうか。 〇長く残すには、どのような木が必要だったのでしょうか。 〇飛鳥の大工達は、檜をどのような思いで使ったのでしょうか。
③木について語る場面	「木は大自然が育てた命ですがな。」	・神代の時代から生きているなんてすごい。	★木の尊さに気づかせ、価値に迫らせる。 〇どうして、飛鳥の大工達は、このように木を大切にするのでしょうか。
④檜の原始林について語る場面	「それはおどろきまっせ。それほどの木が立ち並ぶ姿を目にしますと思わず頭を下げてしまいますな。」	・なぜ、頭を下げることがあるのだろうか。 ・自分も行ってみたいなぁ。	★西岡さんの考えにふれ、価値を理解させる。 〇西岡さんは檜をどのような存在と考えていますか。

板書計画

木の命　木の心

法隆寺
（世界最古の木造建築）

法隆寺の
写真

先人の技・知恵
・木を読む
（なかなかできない）
・樹齢千年以上の檜
←
・千年持つ

大工達の思い
・木はものでない
・千年生きられるように
・木の申し訳がない

木を大切にする理由
・木は尊いものだ
・千年も生きている
・神代の時代から生きている
・木は大自然が生み育てた命

西岡さんのおもひ
木は人間と同じ

道徳学習プリント「木の命　木の心」

年　　組　　番　氏名

1　法隆寺について

2　先人の技や知恵

3　大工達の思い

4　木を大切にする理由

5　西岡さんのおもひ

6　授業の感想をまとめよう